



浅江小だより

あかるく さわやかに えがおで

そして、たのしく

令和元年 10月号
NO.7 10月15日
光市光ヶ丘2番10号
TEL (0833)72-0039

HP <http://asae-e.hikari-net.ed.jp/>

光市立浅江小学校 校長 和田 明俊



いよいよ後期スタート



秋の気配が感じられる爽やかな季節となり、今日からいよいよ後期がスタートしました。前期の半年間で、行事を乗り越えるごとに、子どもたち一人一人見違えるほどの成長が見られ、とりわけ1年生は日に日にたくましくなり、元気で明るい「浅江っ子」になってきているなど、とてもうれしく思っています。

令和元年度も、あと6ヶ月です。特に6年生にとっては、小学校生活も1日1日と少なくなってきました。今までよりも、今日という日を大切にしてほしいと思っています。

一年間の折り返しのこの時期、一つ子どもたちに伝えたいことがあります。

それは、「言葉の大切さ」です。

先日、6年生は福祉の学習で手話について学びました。手話を使われる方々は、オーケストラの指揮者のように滑らかな手の動きで会話されています。そして、一つ一つの言葉をとても大切にされている姿に心を打たれました。

浅江小学校の子どもたちにも、この「言葉」を心から大切にしてほしいと思っています。

今、子どもたちの身近になったSNSやオンラインゲームの中で、言葉による暴力が広がっています。このことは、浅江小学校だけでなく、日本全体、世界中で広がっています。そして、子どもたちの未来までも続くのではないかと考えると、とても不安になります。

でも、その一方で、9月に開催された国連気候サミットで演説した、スウェーデンの16歳の少女、グレタ・トゥーンベリさんの「言葉」が世界中に感動と勇気を与え、世界の国々を動かそうとしています。

そこで、浅江小の子どもたちに伝えたいことがあります。

「言葉」は、人に元気や勇気をあたえる魔法があります。

しかし、「言葉」は、人を傷つけ希望を失わせる恐ろしいものでもあります。

「言葉」をどのように使うかは、それは発する人の心にゆだねられます。

そして、「言葉」は、まわりの人の心に伝わるだけでなく、自分の心にも返ってきます。

人の心を元気にする「フワフワ言葉」

人の心を傷つける「チクチク言葉」

そして、人の命を大切にしない、「絶対に使ってはいけない言葉」

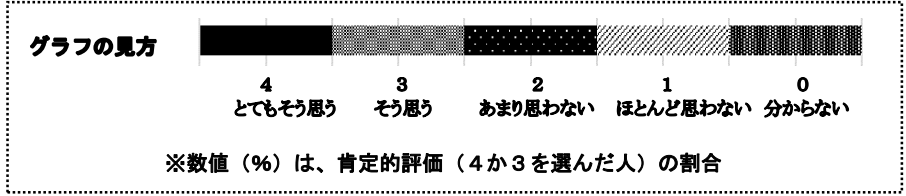
3月まで、このことをくりかえし、くりかえし伝え続けていきたいと思っています。

浅江小学校760人全員が、「命を大切にする」「光り輝く」子どもたちになるよう、保護者の皆様、地域の皆様と力を合わせ、これからも頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

～よりよい学校づくりのためのアンケートの結果（抜粋）～

多数の保護者の皆様に「よりよい学校づくりのためのアンケート」にご回答いただき、ありがとうございます。昨年度に引き続き、マークシート方式でのご回答をいただき、お手数をおかけいたしました。

今年度は、児童、保護者、教職員からアンケートを取り、その集計結果をもとに学校運営協議会委員さんらご意見をいただきました。なお、この結果については、教職員で協議するとともに、第2回学校運営協議会で報告いたしました。



【肯定的評価が高かった項目】

1 学校は、学校教育目標やめざす子ども像をPTA総会や様々な教育活動の中で説明している。(児童：あかるく・さわやかに・えがおで学校生活を過ごしている。)	(保) : 86% (児) : 90% (教) : 89%
2 学校は、学校だよりやHP、連絡メール等で子どもの様子や教育活動の情報を発信している。(児童：将来の夢や希望をもっている。)	(保) : 81% (児) : 87% (教) : 86%
6 学校は分かりやすい授業づくりに努めている。(児童：授業はわかりやすい。)	(保) : 84% (児) : 89% (教) : 94%
9 学校は、保護者と連携してPTA活動をしている。(児童：人の気持ちがわかる人間になりたいと思う。)	(保) : 87% (児) : 91% (教) : 86%
10 学校は、子どもの安心・安全に配慮している。(児童：安全に気をつけて過ごしている。)	(保) : 88% (児) : 93% (教) : 96%
11 学校は、コミュニティ・スクールとして、地域の人材を活用した体験学習や学習支援に取り組んでいる。(児童：学校での学習で、地域の方といっしょに活動することは楽しい。)	(保) : 87% (児) : 86% (教) : 91%
15 お子さんは、学校に行くことを楽しみにしている。(児童：学校は楽しい。)	(保) : 81% (児) : 87% (教) : 91%
18 お子さんは、社会のルールやマナーを守って生活している。(児童：きまりやマナーを守っている。)	(保) : 84% (児) : 91% (教) : 96%

これらの肯定的評価の高かった項目について、保護者の皆様から次のような意見をいただいています。

(保) 担任の先生からのお便りや学校のメール配信が頻繁に行われていて、学校の様子がよく伝わってくる。

(保) 担任によって、クラスの様子が全く違うように思う。先生の指導に関する研修もしっかり行っていただき、クラスによる差があまりないように努めてほしい。

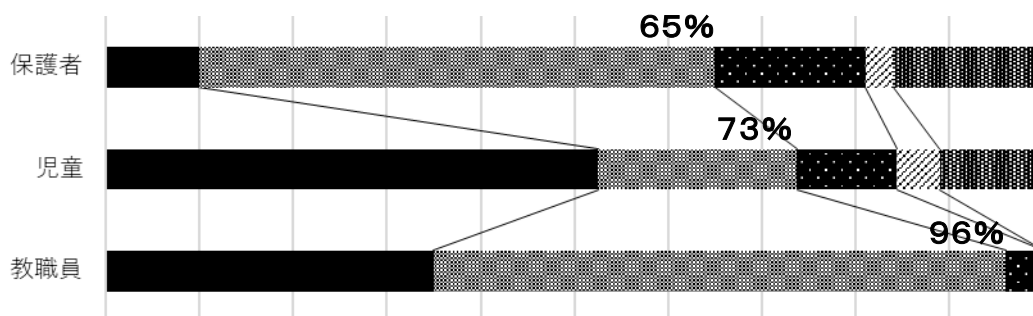
(保) 下校時には、見守り隊の方をはじめ、地域の方も見守って下さり感謝している。

(保) CSの様々な取組に力を入れておられてすばらしいと思うが、先生方の業務が増えることで子どもたちへの対応に余裕がなくなっているのではないかと思う。新しい取組に力を入れるより、子どもが学校は楽しい場所だと思えるような取組や意識改革に努めてほしい。

【評価に差がある項目】

8 学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。

(児童：あなたやまわりの人は、いじめを受けていない。)

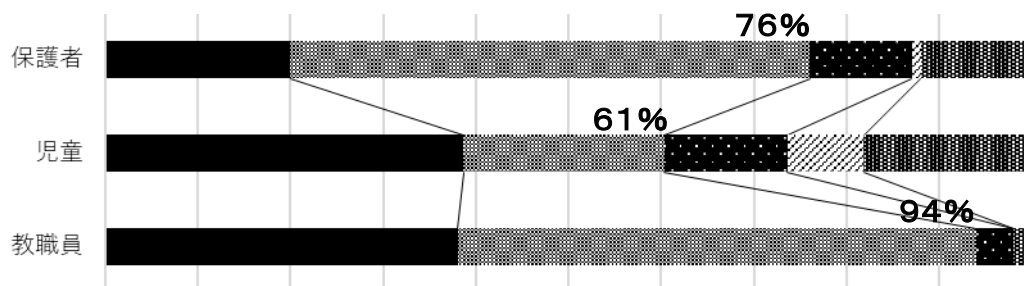


(保) いじめの問題は子どもからの話のみでわからないところもあるが、聞いただけでも悲しくなる。

(保) 子どもが相談したことが十分に解決していないことがあった。一つの学級の問題ではなく学校全体の問題として考えてほしい。

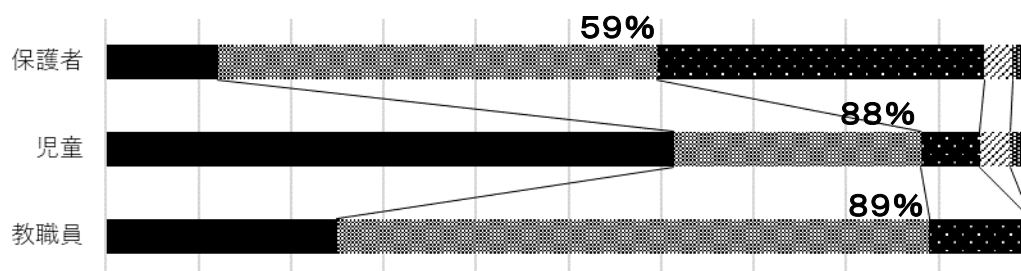
(委) 保護者と教職員との差が大きい。この理由を探ることで改善が図られていくのではないか。いじめの根絶は簡単ではないだけに、学校・家庭・地域が協働して取り組んでいくという気運を高めていきたい。

12 学校のコミュニティ・スクールとしての取組である、学校・保護者・地域が協働した取組は、効果が高いと思う。(児童：地域の行事やボランティア活動に参加している。)



(委) 児童の評価が低い。地域行事への積極的な参加を促す方法が課題となるのではないか。

17 子どもは、よく挨拶をする。(児童：進んで挨拶をしている。)



(保) 浅江小の子どもは、こちらから挨拶をしても返さなかったり会釈で済ませたりする。先生方の子どもが挨拶をしないことへの危機感が薄く、また会釈をしているから良いという甘えも伺われる。会釈と挨拶は全く違うのできちんと指導してほしい。

(保) 朝の交通立哨をしたが、こちらが挨拶をしても子どもは挨拶をしない。また、横断歩道で一瞬も立ち止まることなく渡っていった。昔のように「ありがとうございました」と振り返って言ってくれた子どもは一人だけだった。

(委) 家庭でのしつけが大切である。

【自由記述より（主なもの）】

<保護者の皆様から>

- 親身にサポートしていただいて感謝している。
- 教師の言葉は子どもに大きく影響するので、ちょっとした言葉でも子どもが覚えるということを再認識してほしい。
- 給食で苦手な食べ物を残させてもらえない、全部食べ終わるまで無理やり食べさせられる等により強いストレスを感じている子どもがいる。また、担任の先生によって残食への対応がバラバラなのはよくない。
- 地域と学校のつながりの第一歩は挨拶ではないか。自分から挨拶のできる子どもであってほしい。
- 学年PTA活動は、必要ないと思う。（複数意見）
 - ・ いろんな家庭環境の子どもがいるから。
 - ・ 学級委員さんや先生の負担が大きい。
- 今年度からホームページ（浅小日記）が更新されておらず、子ども達の様子がわからなくなったのが残念。

→ 8月から更新しております。ぜひご覧下さい。

<学校運営協議会委員の皆様から>

- 全体としては、健全な子どもたちが育っているように思う。
- 教職員の肯定的評価が高いのは、学校運営を理解し、協働で進めていることを示している。
- 保護者評価と教職員評価の差がある項目は、受け身側とやっている側の意識の差が大きいので、テーマを絞り対話することが必要なのではないか。
- 「自己肯定感」「いじめ」「コミスクの取組」などは評価に差がある。「思い」と「現実」をきちんと理解する必要がある。
- 教職員より保護者の評価が低い項目は、保護者への理解が進んでいないことに原因があるとも考えられる。今後の具体的な広報活動が必要。
- 保護者の家庭での在り様を学校に委ねているようだ。
- 総括的な項目から重点的な具体項目に改善することが求められているのではないか。

【前期学校評価を終えて】

- 児童は、比較的肯定的評価の割合が高い。良い面であると同時に、さらに自分を見つめ直すことも必要。
- 保護者は、一定の肯定的評価が見られるものの、学校の子どもの様子に不安や心配も多々見受けられる。よりきめ細かな学校からの情報発信が必要。
- 教職員は懸命に指導に当たっているが、さらに少数意見にしっかりと耳を傾け、個別の対応等にも当たっていききたい。
- 地域の方々のお陰で、児童は多様な経験ができ、大きな成長へとつながっている。

多くの貴重なご意見、本当にありがとうございました。
これらの評価を元にして、良い点については継続的に指導し、課題については全力を挙げて改善に取り組んでまいります。

